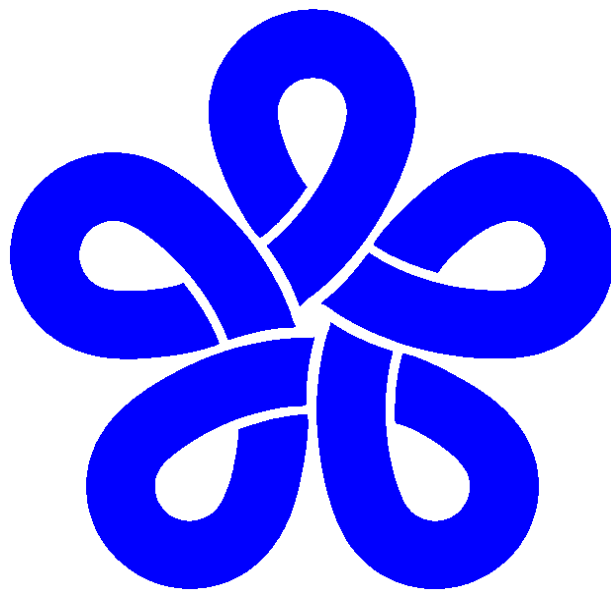


令和5年11月

デリー準州友好提携15周年記念訪問団 報告書



令和5年11月19日～22日

福岡県議会

福岡県・デリー準州友好提携15周年記念訪問団

1 概要

福岡県とインド・デリー準州との友好提携から15周年を迎え、デリー準州で開催される記念式典に参加し交流を深めることで、更なる友好関係の発展を図る。

また、福岡県教育委員会とデリー準州教育局による覚書の締結を行い、両県州の高校の交流を図るとともに、現地の高校生に福岡の魅力をPRする留学説明会などを実施。

2 期間

令和5年11月19日（日）～22日（水）

3 訪問団

大曲 昭恵 福岡県副知事

佐々木 充 福岡県議会副議長

中尾 正幸 福岡県議会 自民党県議団会長代理

新井富美子 福岡県議会 民主県政県議団会長代理

椛島 徳博 福岡県議会 新政会福岡県議団会長

その他参加議員 5名

県内大学関係者

（随行）国際局長ほか2名、環境政策課長ほか1名、教育庁教育監ほか4名、
議会事務局長ほか2名

11月19日早朝に日本を出発した訪問団一行は、現地時間の19日夕方、インド・デリーのインディラ・ガンディー国際空港に到着し、宿泊先となるザ・ラリット・ニューデリーへ移動。

11月19日（日）

デリー福岡県人会との意見交換会（20：30～22：00）

<概要>

インドにおける福岡県ゆかりの方々との交流を深めるとともに、現地の経済・社会情勢やビジネス環境について意見交換を行い、今後の福岡県とインドとの経済・文化・人的交流のさらなる発展につなげることを目的として、デリー福岡県人会との意見交換会を開催した。

<内容>

当日は、関会長をはじめ13名の県人会会員が出席され、大曲副知事、佐々木県議会副議長及び関会長による挨拶が行われたほか、福岡県からデリー福岡県人会へ記念品が贈呈された。佐々木副議長は、「福岡から遠く離れたインドの地において県人会活動を継続されている皆様に深く敬意を表する。経済成長が著しいインドは今後ますます重要性が高まるものと考えており、引き続き県人会の皆様と緊密に連携しながら、相互交流のさらなる深化に取り組んでいきたい」と挨拶された。

その後の意見交換では、会員からインドにおける経済成長や投資環境、人材育成、日本企業の進出状況、日本食や日本文化への関心の高まりなどについて説明があり、福岡県産品の販路拡大や観光誘客、企業間交流の可能性について幅広く意見交換を行った。また、現地で長年活動されている県人会が、福岡県とインドを結ぶ重要な架け橋として大きな役割を果たしていることを改めて認識するとともに、今後も県人会との連携を一層強化し、相互交流のさらなる発展に向けた貴重な知見を得る機会となった。

<所見・提言>

今回のデリー福岡県人会との意見交換会では、インドで活躍されている福岡県ゆかりの皆様から、現地の経済情勢やビジネス環境、生活環境、さらには日本企業の進出状況や日印交流の現状について直接話を伺うことができ、大変有意義な機会となった。現地で長年にわたり活動されている県人会の皆様は、それぞれの分野で豊富な経験と人的ネットワークを築かれており、行政だけでは得ることのできない実践的かつ貴重な知見を得ることができた。

特に印象的であったのは、県人会が単なる親睦団体ではなく、福岡県とインドを結ぶ重要な架け橋として大きな役割を果たしていることである。県人会会員の多くは、日本企業

や福岡県ゆかりの企業において第一線で活躍されており、現地企業や行政機関との幅広いネットワークを有している。こうした人的資産は、県内企業の海外展開やビジネスマッチング、投資促進、さらには人材交流や観光振興を進める上で極めて重要な財産であり、今後も継続的な連携を図ることが必要であると感じた。

また、世界最多の人口を擁するインドは、高い経済成長率を維持しながら急速な都市化と産業の高度化が進んでおり、デジタル分野や製造業、環境・エネルギー、医療、教育など幅広い分野で今後も大きな発展が期待されている。若年人口が多く、旺盛な消費需要と豊富な人材を背景とした成長市場として世界中から注目を集めており、日本企業にとっても極めて重要な投資先となっている。福岡県においても、県内企業の海外展開や新たな販路開拓を進める上で、インド市場の重要性は今後さらに高まるものと考えられる。

一方で、インド市場は地域ごとの文化や商習慣、制度、言語などが多様であり、現地事情を十分に理解した上で事業を展開することが不可欠である。そのためには、県人会をはじめ、現地で活動する企業や関係機関との連携を一層強化し、現地の最新情報やネットワークを積極的に活用することが重要である。また、福岡県産品の輸出促進や企業進出に当たっては、市場ニーズに応じた商品開発や販路開拓に加え、日本文化や福岡県の魅力を一体的に発信することで、地域ブランドの認知度向上につなげていく視点も必要である。

さらに、今後は経済分野だけでなく、教育や人材育成、スタートアップ支援、文化・観光交流など、多様な分野において相互交流を深化させることが重要である。特に、デリー準州との友好提携や教育分野での連携を基盤として、若い世代の交流や研究機関同士の連携、企業間交流を促進することは、将来にわたる福岡県とインドとの関係強化につながるものと期待される。

今回の意見交換を通じて、インドは今後の福岡県の国際戦略において極めて重要なパートナーであることを改めて認識した。県議会としても、デリー福岡県人会をはじめとする現地ネットワークを積極的に活用しながら、県内企業の海外展開支援、県産品の販路拡大、人材育成、観光誘客及び文化交流の促進など、福岡県とインドとの交流をより一層発展させるための実効性ある政策提言を行ってまいりたい。



(大曲副知事 挨拶)



(佐々木副議長 挨拶)

11月20日（月）

デリー準州首相表敬訪問（11：15～12：30）

<目的・概要>

福岡県とインド・デリー準州は、平成19年（2007年）3月に友好提携を締結して以来、経済、環境、教育、文化など幅広い分野において継続的な交流を積み重ねてきた。近年では、友好提携15周年を契機として、教育分野における新たな協力やワンヘルスをはじめとする幅広い分野での連携が進展し、両地域の友好関係は着実に深化している。本訪問は、デリー準州との信頼関係をさらに強固なものとするとともに、これまでの交流成果を確認し、今後の経済、環境、教育、文化など多様な分野における協力関係のさらなる発展に向けて意見交換を行うことを目的として実施した。

アルビンド・ケジリワル（Arvind KEJRIWAL）首相 職歴

2013年12月28日：第7代デリー準州首相就任（1期目）

2014年2月14日：デリー準州首相辞任（1期目）

2014年5月：インド連邦下院議員選挙において、ウッタール・プラデシュ州バラナシ選挙区で立候補。BJPのナレンドラ・モディ氏に敗れる

2015年2月14日：第8代デリー準州首相就任（2期目）

2020年2月12日：第9代デリー準州首相就任（3期目）

当日は、デリー準州のアルビンド・ケジリワル首相を表敬訪問し、これまでの交流実績や今後の連携強化について幅広く意見交換を行った。ケジリワル首相は、「福岡県とデリー準州は友好提携締結以来15年にわたり交流を積み重ね、環境、文化、文化財保護に加え、近年は教育分野にも協力が広がっている。特に、デリーの公立学校と福岡県の公立学校とのオンライン交流が実施されていることを大変喜ばしく思う」と述べられ、これまで築いてきた友好関係を高く評価された。

これに対し、中尾会長代理は、「福岡県はこれまで東南アジアを中心に環境分野における技術協力や教育分野で成果を上げてきた。こうした取組をデリーにおいてもさらに発展させることができるよう、本県議会としても積極的に支援していきたい」と述べ、福岡県議会として交流のさらなる深化に取り組む姿勢を示した。また、双方による記念品の交換が行われ、終始和やかな雰囲気の中で率直な意見交換が行われた。

<所見・提言>

今回のデリー準州首相表敬訪問を通じ、15 年以上にわたり築き上げてきた福岡県とデリー準州との友好関係が、単なる友好交流にとどまらず、環境、教育、経済、文化など多様な分野における実質的な協力関係へと発展していることを改めて認識した。ケジリワル首相からは、これまでの交流実績、とりわけ公立学校同士のオンライン交流など教育分野における取組が高く評価されており、継続的な交流が相互理解と信頼関係の醸成につながっていることを実感した。

特に注目すべきは、環境分野における福岡県の役割である。福岡県、とりわけ北九州市は、かつて深刻な公害問題を克服した経験を有し、その過程で培われた環境保全技術や資源循環、上下水道整備、大気汚染対策などの知見は世界的にも高い評価を受けている。これまでデリー準州に対しても、技術協力や行政職員の人材育成などを通じて環境改善に貢献してきた実績があり、人口増加と急速な都市化が進むインドにおいて、福岡県の経験は今後も大きな価値を有するものと考えられる。

また、近年は教育分野での連携も大きく進展している。学校間のオンライン交流をはじめ、教育行政同士の連携や大学間の協力など、未来を担う若い世代が互いの文化や価値観を理解し、国際感覚を育む環境が着実に整いつつある。こうした人的交流は、将来の経済交流や産業連携を支える重要な基盤となるものであり、継続的な取組が求められる。

さらに、福岡県が世界に先駆けて推進するワンヘルスの理念についても、今後の連携を深める大きな可能性を感じた。人、動物、環境の健康を一体的に捉えるワンヘルスは、急速な都市化や人口増加に伴う感染症対策、環境保全、公衆衛生など、多くの課題を抱えるインドにおいても重要性が高まっている。環境技術に加え、ワンヘルスの理念や政策を共有することで、福岡県の国際的なプレゼンス向上にもつながるものと期待される。

一方、世界最多の人口を擁し、高い経済成長を続けるインドは、日本企業にとって極めて重要な市場であり、福岡県内企業にとっても大きなビジネスチャンスを持っている。今後は、これまで築いてきた行政間交流を基盤として、スタートアップ支援、デジタル、環境、医療、教育など成長分野における企業間連携や投資促進、人材交流をさらに推進するとともに、県産品の販路拡大や観光誘客にもつなげていく視点が重要である。

県議会としても、デリー準州との友好関係を将来にわたり発展させるため、行政、大学、企業、県人会など多様な主体との連携を一層強化するとともに、環境技術、ワンヘルス、教育、人材育成、経済交流を柱とした実効性ある政策を積極的に提言し、福岡県とインド双方の持続的な発展に寄与していく必要があると強く感じた。



（記念品交換の様子。左：ケジリワル首相）



（２）在インド日本国大使館表敬訪問（１４：００～１５：００）

<目的・概要>

本訪問は、在インド日本国大使館との意見交換を通じて、インドにおける日本企業の進出状況や日印関係の現状、今後の経済交流の可能性について理解を深めるとともに、福岡県とデリー準州との友好交流を一層推進するための支援体制について意見交換を行うことを目的として実施した。

当日は、有吉孝史在インド日本国大使館次席公使を表敬訪問し、インドの政治・経済情勢や日印関係の現状、日本企業の事業展開などについて説明を受けた。有吉次席公使は、「インドにはスズキ、ダイキン、ホンダ、ユニクロをはじめ多くの日系企業が進出しており、日本企業にとって極めて重要な市場となっている」と述べるとともに、「今回、デリー準州との覚書に関する手続きが難航したことも承知しているが、今後も必要に応じて大使館として支援していきたい」と述べられた。

これに対し、佐々木県議会副議長は、今回のデリー準州訪問に際し大使館から多大な支援を受けたことに謝意を表するとともに、「デリー準州と福岡県との交流をさらに深めることができるよう、今後ともご支援をお願いしたい」と述べた。その後、福岡県とデリー準州との交流の現状や今後の連携の方向性について率直な意見交換が行われ、経済、教育、環境など多様な分野における交流をさらに発展させるための貴重な機会となった。

<所見・提言>

在インド日本国大使館への表敬訪問では、世界有数の成長市場であるインドにおける日系企業の活躍や、日本とインドの関係強化の現状について理解を深めることができた。インドでは、自動車、空調機器、小売業など幅広い分野で日本企業が存在感を高めており、スズキ、ホンダ、ダイキン、ユニクロをはじめとする企業が現地経済の発展に大きく貢献している。

インドは人口約 14 億人を擁する世界最大の人口大国であり、名目 GDP は世界第 5 位、今後数年以内には世界第 3 位の経済大国になることも見込まれている。また、広大な農地と多様な農業生産を背景に主要農産物の多くを国内で賄う高い食料自給力を有しており、世界経済や食料安全保障においても極めて重要な存在となっている。今後も旺盛な内需と若い労働力を背景に持続的な経済成長が期待されることから、福岡県にとっても海外展開

や経済交流を推進する上で最も重要なパートナーの一つであることを改めて認識した。

また、福岡県とデリー準州との交流を進める上で、在インド日本国大使館が重要な支援機関として大きな役割を果たしていることを実感した。自治体間交流は制度や行政手続、文化や商習慣の違いなどから様々な課題が生じることも少なくないが、今回、有吉次席公使から覚書締結に向けた調整についても大使館として支援していくとの心強い言葉をいただき、国際交流や自治体間連携を円滑に進めるためには、現地事情に精通した大使館との緊密な連携が不可欠であることを改めて認識した。

さらに、意見交換では福岡県が推進するワンヘルスの取組についても紹介した。人、動物、環境の健康を一体的に捉えるワンヘルスの理念は、感染症対策のみならず、環境保全や持続可能な社会づくりに向けた国際的な指針として注目されている。人口増加や都市化が進むインドでは、公衆衛生や環境対策の重要性が一層高まることが予想され、福岡県が培ってきた環境技術やワンヘルスの知見は、今後の国際協力において大きな価値を有すると考える。

また、福岡県は北九州市が公害克服の過程で培った環境技術や資源循環のノウハウに加え、自動車、半導体、ロボット、食品関連産業など幅広い産業集積を有している。こうした福岡県の強みと、インドの旺盛な市場や成長力を結び付けることができれば、県内企業の海外展開や県産品の販路拡大、スタートアップ連携、観光誘客、人材交流など多方面にわたり大きな経済効果が期待できる。インドとの交流を経済・環境・教育・公衆衛生など多様な分野へと発展させることは、福岡県経済の持続的な成長や国際競争力の向上に大きく寄与するものである。

県議会としても、大使館をはじめとする関係機関との連携を一層強化するとともに、デリー準州との友好関係を基盤として、経済交流、企業進出支援、人材育成、ワンヘルス、環境協力を戦略的に推進し、インドという世界最大級の成長市場との結び付きを一層強固なものとする中で、福岡県のさらなる発展につなげていくための実効性ある政策提言を行ってまいりたい。



(記念品の贈呈)

在インド日本国大使館 次席公使略歴

氏 名 有吉 孝史

出身地 福岡県

平成 6. 4 外務省入省

令和 元. 7 内閣官房内閣参事官(国家安全保障局)

3. 7 経済局政策課長

4. 8 兼 G7広島サミット事務局副事務局長

5. 9 在インド日本国大使館 次席公使

(3) 福岡県・デリー準州友好提携15周年記念式典・レセプション

(19:30~21:30)

○記念式典

開会

ケジリワル首相挨拶

大曲副知事挨拶

佐々木副議長挨拶

覚書等 ①福岡県とデリー準州の覚書披露

②福岡県教育長とデリー準州教育局長との協議合意書への署名

③福岡工業大学とデリー準州教育委員会との協議合意書へ署名

記念撮影

○レセプション

乾杯挨拶

歓談

<目的・概要>

福岡県とインド・デリー準州は、平成19年(2007年)の友好提携締結以来、環境、教育、文化、青少年交流など幅広い分野で交流を積み重ね、相互理解と信頼関係を深めてきた。本式典は、友好提携15周年という節目を迎え、これまでの交流成果を確認するとともに、教育をはじめとする新たな協力体制を構築し、両地域の友好関係をさらに発展させることを目的として開催された。

当日は、在インド日本国大使館の有吉孝史次席公使、デリー福岡県人会会員をはじめ、多くの関係者が出席する中、「福岡県・デリー準州友好提携15周年記念式典」が盛大に開催された。式典では、新たに「福岡県教育庁とデリー準州教育局」及び「福岡工業大学とデリー準州教育委員会」との間で覚書が締結され、教育分野における相互協力のさらなる推進が図られた。

ケジリワル首相は、「2007年の友好提携締結以来、芸術、文化、環境、青少年交流など様々な分野で交流を重ねてきた。両地域の友情、協力、相互信頼が今後も世代を超えて発展し、繁栄し続けることを期待している」と挨拶された。これに対し、中尾会長代理は、日本国大使館をはじめ関係者への支援に感謝の意を表するとともに、「両地域のさらなる発展に向け、本県議会としても積極的に取り組んでいきたい」と述べ、交流の一層の深化に向けた決意を示した。式典終了後のレセプションでは、参加者が歓談を通じて親睦を深め、今後の交流促進に向けた有意義な意見交換が行われた。

<所見・提言>

今回の「福岡県・デリー準州友好提携15周年記念式典」は、平成19年(2007年)の友好提携締結以来、両地域が積み重ねてきた交流の成果と強固な信頼関係を改めて確認するとともに、今後の連携の方向性を共有する大変意義深い機会となった。特に、「福岡県教育庁とデリー準州教育局」及び「福岡工業大学とデリー準州教育委員会」との間で新たな覚書が締結されたことは、これまでの環境や文化を中心とした交流から、未来を

担う人材育成や教育分野へと協力の幅が大きく広がることを示すものであり、友好関係が新たな段階へ進んだことを実感した。

これまで福岡県とデリー準州は、北九州市が公害を克服する過程で培った環境技術や行政ノウハウを活用し、大気汚染対策や廃棄物処理、水環境改善など環境分野における協力を着実に進めてきた。また、学校間のオンライン交流をはじめとする教育分野での取組も継続的に実施され、次世代を担う若者同士の相互理解や国際感覚の醸成に寄与している。今回の覚書締結を契機として、教職員や学生の相互交流、教育プログラムの共同実施、人材育成、教育環境の充実など、より具体的で継続的な連携が進展することを大いに期待したい。

さらに、福岡県が世界に先駆けて推進するワンヘルスの理念についても、今後の交流を発展させる重要な柱となり得ると感じた。人口増加や急速な都市化が進むデリー準州では、感染症対策、公衆衛生の向上、環境保全などが重要な政策課題となっており、人・動物・環境の健康を一体的に捉えるワンヘルスの考え方は、持続可能な都市づくりを進める上で極めて有効である。福岡県が蓄積してきた知見や政策を共有することは、デリー準州のみならず、国際社会への貢献にもつながるものと考ええる。

また、人口約 14 億人を擁し、世界有数の経済成長を続けるインドは、今後も世界経済を牽引する重要な国である。今回の 15 周年を契機に、教育や環境分野に加え、スタートアップ支援、デジタル技術、観光、県産品の輸出促進など経済分野における交流をさらに強化することで、福岡県内企業の海外展開や新たな投資・雇用の創出につながり、福岡県経済の持続的な発展にも大きく寄与することが期待される。

県議会としても、この 15 周年という節目を一過性の記念事業として終わらせることなく、行政、教育機関、企業、県人会など多様な主体との連携を一層強化し、環境、教育、文化、経済、さらにはワンヘルスをはじめとする公衆衛生分野において実効性のある政策を積極的に提言・推進していくことが重要である。今回築かれた新たな協力関係を着実に実りあるものとし、福岡県とデリー準州双方の持続的な発展と友好関係のさらなる深化につなげていく必要があると強く感じた。



(ケジリワル首相挨拶)



(佐々木副議長挨拶)



(中尾会長代理 乾杯挨拶)



(覚書の締結)



11月21日（火）

（１）デリー準州ドワルカ高校訪問 （１０：４５～１２：１５）

<目的・概要>

本訪問は、福岡県とデリー準州が教育分野において推進する国際交流の取組を視察するとともに、両地域の学校間交流の成果を確認し、次代を担う若者同士の相互理解や国際感覚の醸成に向けた連携のさらなる発展について意見交換を行うことを目的として実施した。教育交流を通じて友好提携を将来にわたり発展させるための基盤づくりとして位置付けられる重要な視察である。

当日は、デリー準州立ドワルカ高校を訪問し、生徒や教職員から盛大な歓迎を受けた。福岡県側から学校へ記念品を贈呈するとともに、学校側からは生徒たちが制作した絵画が贈られ、相互の友好と交流の証となった。その後、福岡県立戸畑高等学校とデリー準州立ドワルカ高校によるオンライン交流を視察し、生徒たちはそれぞれの学校生活や地域の特色、文化、将来の夢などについて英語を交えながら積極的に紹介し合い、活発な意見交換を行った。国や文化の違いを越えて互いを理解し尊重する姿勢が随所に見られ、教育を通じた国際交流が両地域の友好関係を支える重要な礎となっていることを改めて実感する機会となった。

【訪問先概要】

デリー準州ドワルカ高校

- ・ドワルカ高校は、デリー準州の公立専門学校である、S0SE（School of Specialized Excellence）のひとつ。
- ・S0SE とは、デリー準州政府教育局により、2021 年から設置が開始された公立の専門学校を指す。第9 学年から第12 学年（日本の中学3 年～高校3 年）の生徒が通う。デリー準州には現在36 のS0SE があり、生徒数は全体で8,000 人ほど。
- ・専門分野は、①科学・技術・工学・数学（STEM）、②人文科学、③芸術、④21 世紀高度スキル、⑤軍隊予備学校の5 つに分かれている。
- ・ドワルカ高校は、上記のうち芸術分野に特化した学校。生徒数はおよそ400 人。2022 年4 月より日本語教育が実施されている学校の一つ。



オンライン交流の開催会場



留学説明会の開催会場



外観

<所見・提言>

今回のデリー準州立ドワルカ高校への訪問は、福岡県とデリー準州が進める教育交流の成果を直接確認するとともに、国際交流が次代を担う若者の育成に果たす役割の大きさを実感する貴重な機会となった。生徒や教職員による心温まる歓迎からは、日本や福岡県に対する高い関心と親しみを感じることができ、生徒が制作した絵画の贈呈は、言語や文化の違いを超えて築かれた友情と信頼関係の象徴であり、長年にわたる交流の積み重ねを強く実感した。

また、福岡県立戸畑高等学校とドワルカ高校によるオンライン交流では、生徒たちが学校生活や地域文化、将来の夢などについて積極的に発表し、互いの価値観や文化への理解を深めていた姿が大変印象的であった。デジタル技術を活用した交流は、距離や時間の制約を超えて継続的な学びの機会を創出できる優れた取組であり、国際感覚やコミュニケーション能力を備えたグローバル人材の育成に大きく寄与するものと考えている。

デリー準州は約 3,500 万人の人口を抱える世界有数の大都市圏であり、多数の学校で多くの児童・生徒が学んでいる教育都市でもある。一方、福岡県においても多くの児童・生徒が地域社会を支える未来の担い手として学んでおり、両地域が教育を通じて若い世代を結び付ける意義は極めて大きい。こうした交流は、単なる語学学習にとどまらず、多様な価値観を理解し、国際社会で活躍できる人材を育成する上で重要な教育的価値を有している。

今後は、今回締結された教育分野の覚書を具体的な成果へとつなげるため、オンライン交流に加え、実際の相互留学や短期研修、教職員交流、共同授業、さらには修学旅行を活用した交流プログラムの創設を積極的に検討すべきである。実際に現地を訪れ、異なる文化や生活環境を体験することは、生徒の視野を大きく広げ、将来の進学や就職、国際的な活躍への意欲を高める契機となる。また、受入家庭でのホームステイや企業・大学訪問を組み合わせたプログラムを構築することで、教育・文化・産業を一体化した交流へと発展させることが期待される。

福岡県では、ベトナム・ハノイ市との友好関係を基盤として、日本語教育交流や高校生・大学生の相互派遣など教育交流事業を着実に推進しており、若者の育成と友好関係の深化につながる成果を上げている。この実績やノウハウをデリー準州との交流にも展開することで、実効性の高い教育交流モデルを構築できるものと考えている。

県議会としても、未来を担う若者同士の交流は将来の自治体間交流や経済交流を支える重要な基盤であるとの認識のもと、教育委員会、学校、大学、企業、行政が一体となった継続的な交流体制の整備を後押しし、留学・修学旅行・共同学習など実践的な交流プログラムの実現に向けた政策提言を積極的に進めることで、福岡県とデリー準州の友好関係を次の世代へ確実に継承していく必要があると強く感じた。



(歓迎の様子)



(オンライン交流の様子)

（２）福岡留学説明会オープニングセレモニー （１２：２０～１３：００）

<概要>

デリー準州立ドワルカ高校において、福岡県への留学説明会が開催された。説明会は生徒たちによる歓迎演奏で幕を開け、終始和やかな雰囲気の中で進行した。佐々木県議会副議長は挨拶の中で、「本日の留学説明会を通じて福岡県への理解を深め、ぜひ本県への留学を前向きに検討していただきたい」と述べ、福岡県の教育環境や魅力を紹介するとともに、生徒たちへ積極的な留学を呼びかけた。説明会では、福岡県の高校や大学、生活環境などについて説明が行われ、生徒たちは熱心に耳を傾けていた。

<所見・提言>

今回の留学説明会を通じて、デリー準州の生徒たちが日本や福岡県に対して高い関心を抱いていることを強く感じた。歓迎演奏をはじめ、生徒たちが積極的に交流へ参加する姿勢からは、海外で学ぶことへの意欲や異文化への関心の高さがうかがえた。

人口約 14 億人を擁するインドは、世界最大の人口を有し、豊富で優秀な若年人材を抱える国である。こうした将来性豊かな若者に対して福岡県の教育環境や生活環境、産業の魅力直接向信することは、優秀な留学生の受入れだけでなく、将来にわたる人的ネットワークの形成や国際交流の深化につながる極めて重要な取組である。

現在、福岡県には約 19,400 人（2024 年 5 月現在）の留学生が在籍しており、その数は東京都、大阪府、京都府に次いで全国第 4 位である。このように福岡県は全国有数の留学生受入れ地域として高い実績を有している一方、インドからの留学生は依然として少なく、大きな伸びしろがある。今後、デリー準州との教育交流を深化させることで、インドからの優秀な学生を呼び込み、大学や企業との連携を通じて高度外国人材の確保や県内産業の国際競争力向上にもつなげることが期待される。

また、福岡県ではベトナムとの教育交流を基盤として修学旅行や学校間交流などを積極的に展開し、多くの成果を上げている。こうした実績を参考に、デリー準州との間でも短期留学、相互訪問型の修学旅行、ホームステイ、大学・企業訪問を組み合わせた交流プログラムを新たに構築することを提案したい。オンライン交流を入口として実際の往来へ発展させることで、生徒同士の相互理解が一層深まり、将来の経済交流や人的交流を支える基盤となる。

県議会としても、教育交流を将来への投資と位置付け、学校・大学・企業・行政が連携した継続的な受入れ体制の整備や留学支援制度の充実を後押しするとともに、福岡県とデリー準州との次世代交流をさらに発展させるための政策提言を積極的に行っていく必要があると強く感じた。



（生徒によるオープニング演奏）



（会場内の様子）

<総括>

今回のインド共和国視察は、福岡県とデリー準州との友好提携 15 周年という大きな節目に実施され、これまで築き上げてきた交流の成果を確認するとともに、今後の新たな連携の方向性を共有する極めて有意義な機会となった。視察を通じて強く感じたのは、福岡県とデリー準州との関係が、行政間の友好交流にとどまらず、環境、教育、経済、文化、公衆衛生など多様な分野における実践的な協力関係へと着実に発展していることである。

現在、インドは人口約 14 億人を擁する世界最大の人口大国であり、名目 GDP は世界第 5 位、今後は世界第 3 位の経済大国となることが予測されている。また、豊富な若年人口を背景に、高い経済成長を維持しながらデジタル化や産業高度化が急速に進展している。世界中の企業や自治体がインドとの連携を強化する中、福岡県にとってもインドは、経済、教育、人材、環境など幅広い分野で最も重要なパートナーの一つであることを改めて認識した。

今回の訪問では、デリー準州首相との会談や 15 周年記念式典を通じ、これまで 15 年間にわたる交流が高く評価されていることを確認することができた。特に、福岡県教育庁とデリー準州教育局、さらに福岡工業大学とデリー準州教育委員会との間で教育分野の覚書が締結されたことは、これまでの交流を次世代育成へと発展させる重要な一歩であり、今後の交流の方向性を象徴する成果であった。行政間の信頼関係が教育や人材育成という将来への投資へ結び付いたことは、今回の視察における最大の成果の一つである。

教育交流では、ドワルカ高校と戸畑高校によるオンライン交流や留学説明会を視察した。生徒たちは互いの学校生活や文化、将来の夢について積極的に発表し、国境を越えた交流を自然に行っていた姿が大変印象的であった。国際社会で活躍するためには、若い世代が異文化を理解し、多様な価値観を尊重する姿勢を身に付けることが不可欠であり、このような教育交流は将来の国際人材育成の基盤となるものである。

福岡県は全国でも有数の留学生受入れ県であり、約 1 万 9 千人を超える留学生が学んでいる。しかし、インドからの留学生は依然として多くはなく、大きな可能性を秘めている。今後はオンライン交流だけでなく、短期留学、相互留学、修学旅行、大学間交流、教職員交流、共同研究などへと発展させることが重要である。また、福岡県がベトナムとの交流で培ってきた修学旅行や学校間交流のノウハウを活用し、デリー準州との新たな教育交流モデルを構築することも有効であると考ええる。

さらに、デリー福岡県人会や在インド日本国大使館との意見交換では、インド市場の将来性や現地事情について貴重な知見を得ることができた。県人会は現地企業や行政との幅広いネットワークを有し、福岡県とインドを結ぶ重要な架け橋として機能している。また、大使館からは日本企業の進出状況や外交・経済情勢について説明を受けるとともに、自治体間交流への継続的な支援をいただけることを確認した。海外展開を進める上では、こうした現地ネットワークとの連携が極めて重要であり、県内企業の販路拡大や投資促

進、人材交流を進める上でも大きな力となる。

また、今回改めて実感したのは、福岡県が有する環境分野の強みである。北九州市が公害を克服する過程で培った環境技術や行政ノウハウは、急速な都市化による大気汚染や廃棄物処理などの課題を抱えるデリー準州において極めて高い価値を有している。さらに、福岡県が世界に先駆けて推進するワンヘルスの理念は、感染症対策、公衆衛生、環境保全を一体的に進める新たな政策モデルとして、人口増加が続くインドとの親和性も高い。今後は環境技術とワンヘルスを福岡県の国際戦略の柱として位置付け、国際協力と地域経済の発展を両立させる視点が重要である。

加えて、インドとの交流は教育や環境にとどまらず、経済発展にも大きく寄与する可能性を秘めている。福岡県は自動車、半導体、ロボット、食品、環境関連産業など高い技術力を有する企業が集積しており、インドの巨大市場や旺盛な消費需要、豊富な若年人材と結び付けることで、新たなビジネス機会や投資、スタートアップ連携、人材確保など幅広い効果が期待できる。また、県産品の輸出拡大や観光誘客、文化交流を組み合わせることで、「福岡ブランド」の価値向上にもつながるものと考えている。

今回の視察を通じて得た最大の成果は、行政、教育、経済、文化、人的交流が相互に連携することで、友好提携が地域の発展へと結び付くことを具体的に確認できたことである。国際交流は単なる親善活動ではなく、将来の産業振興、人材育成、地域経済の活性化につながる重要な政策である。県議会としても、今回得られた知見を一過性の成果に終わらせることなく、代表質問、一般質問、常任委員会等を通じて、教育交流の充実、留学生受入れ促進、県内企業の海外展開支援、ワンヘルスの国際展開、環境技術を活用した国際協力、さらにはデリー準州との継続的な交流事業の推進について積極的に政策提言を行い、福岡県の国際競争力の向上と持続的な経済発展、そして県民福祉の向上につなげていきたい。

デリー準州友好提携 15 周年記念訪問団 日程

	日時		内容
1	11月 19日 (日)	6:15 7:00 8:35 10:35 17:25 20:00-20:15 20:30-22:00	集合（福岡空港国内線ターミナル 1F全日空カウンター前） 福岡発（NH240、約1時間35分） 羽田着 羽田発（NH837、約10時間20分） デリー着 ホテルチェックイン 結団式 デリー福岡県人会との意見交換会 （デリー泊）
2	20日 (月)	11:15-11:30 11:30-12:30 13:00-13:40 14:00-15:00 19:30-21:30	デリー準州首相室での歓待（副知事、副議長、会派代表）※調整中 デリー準州首相表敬訪問 昼食 在インド日本大使館表敬訪問 友好提携 15周年記念式典・レセプション （デリー泊）
3	21日 (火)	9:15 10:45-12:15 12:20-13:00 13:15-14:15 18:55	ホテル発 ドワルカ高校訪問 （①戸畑高校とのオンライン交流視察、意見交換） （②福岡留学説明会※冒頭の挨拶のみ出席） 昼食 デリー発（NH838、約7時間35分） （機中泊）
4	22日 (水)	6:00 8:30 10:25	羽田着 羽田発（NH243、約1時間50分） 福岡空港着